

震災を機に、新たな体制での事業再開を目指して!!

【林業振興部】

株式会社丸梅材木店の相澤梅治会長は、仙台市若林区種次地区に自社を構え、主に住宅建築用プレカット材の加工・販売を担っていましたが、東日本大震災の際、海岸から約3.5kmに立地していた自宅・事務所・工場建屋は、3.3mの津波に飲み込まれ、壊滅的な被害を受けました。

幸い13人の従業員らは全員無事であり、国庫補助事業の活用により現地再建を目指しました。浸水区域であることなどで難航を極めていたものの、関係法令等の調整がこのほど整い、事務所兼工場の建築が可能となりました。今後は旧建屋の解体・地盤改良工事を経て、順次、建屋建築や工作機械等の据付けを行い、来年4月の本格操業を目指すことになります。

相澤会長は今なお、仮設住宅での生活を強いられていますが、震災後1ヶ月頃からは、従来からの顧客の要請に応じ、関連会社の協力を得ながらプレカット加工を行うなど、被災者向けの住宅用建材を供給し続けてきました。20年程前、当時、大工職人の減少・高齢化などを憂い、県内でもいち早くプレカット機械や木材乾燥機を導入したのが始まりです。

本年7月には社長の椅子を息子さんに委ね、最新鋭の機械を導入し、震災により解雇した従業員も呼び寄せるなど、来年4月の事業再開に向けた新体制の準備を着々と進めています。相澤会長の表情には、自信と安堵感が満ちていました。



3.3mの津波の高さが印された旧建屋の前で
(相澤会長(右)と相澤新社長)

マイファーム亘理の加工用トマト、評価急上昇中!

【地方振興部】



収穫体験の様子

亘理町吉田地区で、農事組合法人マイファーム亘理協同組合(以下、マイファーム亘理)が、加工用トマトの栽培を通して復興の歩みを着実に進めています。ケチャップ、トマトジュースなどの加工品が好評であるほか、津波による農地の塩害や水利施設の損壊といった厳しい条件下で高品質のトマトの大規模栽培に成功したことが評価され、第15回「日本水大賞」でグランプリを受賞するなど、被災地農業の新たな可能性を示しています。

地方振興部では、この加工用トマトの良さを知っていただこうと8月3日、みやぎ食材伝道士(※1)など料理人の方を対象にマイファーム亘理で加工用トマトの

収穫体験会を開催しました。結果、ホテルレオパレス仙台のトラットリアクチャーナオランジェリー(※2)では、復興応援フェアの中で、トマトを使ったパスタやシャーベットなどが9月のメニューで提供されることになりました。皆さんも是非、レストランに足を運び、おいしいトマトを召し上がってください。

※1 みやぎ食材伝道士(ホームページ URL : <http://www.pref.miyagi.jp/site/dendoushi/>)

農業者等生産者のもとで生産作業を実体験した料理人で、仙台地方振興事務所が認定した、新鮮で多彩な食材の良き理解者。

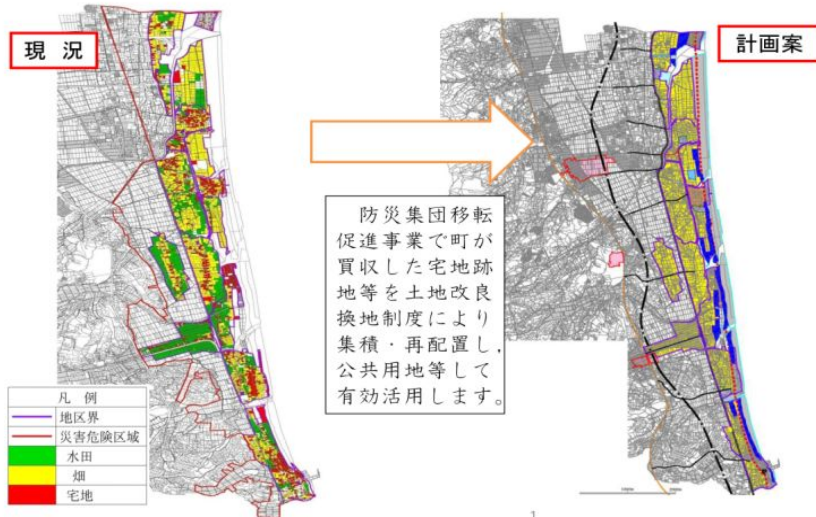
※2 トラットリアクチャーナオランジェリー(ホームページ URL : <http://r.gnavi.co.jp/t603300/menu8/>)

食材伝道士のいるお店で、復興応援フェアとして県産食材を使った料理を提供している。



人気の
トマトジュース

復興交付金を活用した農地整備事業、管内最後の地区計画策定に向けラストスパート！



山元東部地区の事業実施前後イメージ

【農業農村整備部】

仙台地方振興事務所管内(以下、管内)の津波被災市町では、各市町の震災復興計画に掲げた農業の復興を実現するため、復興交付金を活用した農地整備事業(以下、C-1事業)を計画しています。このC-1事業により、農地の大区画化による大規模経営体の育成や、防災集団移転促進事業により市町が買収した住宅跡地を取り込むことによる秩序ある土地利用の実現が期待されます。

昨年度は仙台市、名取市、岩沼市、亶理町の被災農地 2,789ha の計画が策定され、本年度から事業が実施されることとなりました。

このC-1事業は、27年度末までに管内で約3,800haを実施する予定で、本年度は七ヶ浜町で約140ha、山元町で870haの計画を策定中です。

現在C-1事業の実施に向け最後の調整に入っている山元町は、東日本大震災の津波により町全体の農地の6割を超える約1,350haが被害を受けており、3地区でC-1事業を計画しています。そのうち特に大きな被害を受け、沿岸部から旧JR常磐線までの約650haもの事業面積を対象とする山元東部地区について、地元合意形成の支援を強化するため、県は本年8月から山元東部地区専任チームを設置しました。同チームは山元町など関係機関と連携しながら、住民説明会への対応や事業計画の作成及び事業の推進に向けた調整などを行うこととしており、復興の加速化を図ります。

元気に育て！ワカメの種苗

【水産漁港部】

東日本大震災で大きな被害を受けた七ヶ浜町花淵浜(はなぶちはま)で、ワカメの種苗が元気に育っています。

七ヶ浜町では、漁業者のほとんどが被災し、漁業をやめてしまう方もいました。そうした状況にあって、花淵浜の漁業者グループは、いち早く震災から立ち上がろうと、平成23年秋から新たにワカメ養殖を始めました。

よいワカメをとるためには、よい種苗を手に入れることが大切です。花淵浜で



ワカメの種をロープに付着させる作業の様子

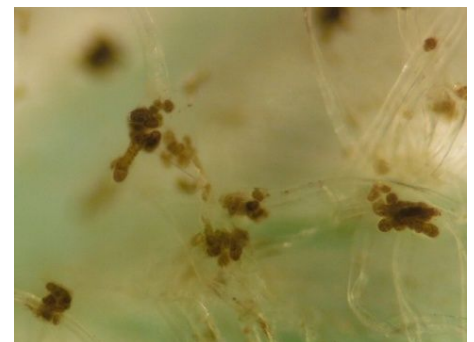
は、これまで他から買っていた種苗を、昨年からは自分たちで作り始めました。取り組みは順調に進み、1年目となった昨年はおよそ60tのワカメがとれました。

今年も5月下旬に、海水を張った大きな水槽の中でワカメからとった種を、枠に巻いたロープに付着させる作業を始めました。その後は水槽の水温や光、塩分を管理しながら、目に見えないほど小さなワカメの種苗を大切に育てています。

花淵浜の他にも、東松島市の矢本や塩竈市でもワカメの種苗づくりが行われています。特に、塩竈市では以前から種苗づくりが盛んで、各地に種苗を送り出しています。

大切に育てた種苗は、秋にはいよいよ海に出して本格的な養殖をスタートさせます。そして、1~2月頃には2mもの大きさに成長し、収穫されて皆さんの食卓へ届けられます。

被災地漁業の復興への思いがこもったワカメが食べられるのを皆さんも心待ちにしてください。



元気に成長するワカメの種(顕微鏡写真)

農家レストラン開業 ～柳生旬彩 ひだまり～

【農業振興部：仙台農業改良普及センター】

7月13日、農産加工の製造・販売を続けてきた農家のお母さんグループが、六次産業化法(※1)の認定を受けて、仙台市太白区柳生に農家レストラン「柳生旬彩 ひだまり」をオープンさせました。代表の佐藤郁子さん宅の一部を改築した店舗は、季節の花に彩られた庭が眺められ、落ち着いて食事をしていただける居心地の良い空間となっています。



花いっぱいの店舗外観

開業にあたって集まったスタッフは、「旬の野菜の美味しさを皆さんに伝えたい、地域の人が集える場を提供したい」という思いに共感してくれた仲間総勢13名。シフトを組んで、毎日交代で楽しく調理や接客に当たっています。

主力メニューは、美味しいトマトと新鮮な野菜をたっぷり使った本日のランチ(1,000

円)と、それに野菜スイーツとコーヒーが付いたランチセット(デザートセット1,300円)など。どちらにもサラダとおひたし、漬物のバイキングが付いており、ランチの内容は月替わりとなっています。

営業時間は午前11時30分から午後2時までで、日曜日が定休日です。予約の必要はありませんが、売り切れ次第終了となりますので、事前に電話等で確認してからの来店がおすすめです。採れたての野菜を農家ならではの知恵で調理した料理を皆さんも是非一度食べに行ってみてください。

「柳生旬彩 ひだまり」住所：仙台市太白区柳生 6-13-6

Tel：022-778-0690

※1：農林漁業者が、生産・加工・流通を一体化しようとする(六次産業化の)取り組みを支援する法律。農林漁業者が六次産業化法の認定を受けると、様々なメリットがある。



ひだまりを支える仲間たち



季節の食材たっぷりのランチ

仙台東部地区の農業復興を目指し「仙台農業復興塾」を開催中

【農業振興部：仙台農業改良普及センター】

仙台農業改良普及センター(以下、仙台普及センター)では、東日本大震災による津波の被害を受けた仙台東部地区の農業の復興を支援するため、農業者向けの研修会「仙台農業復興塾」を開催しています。

仙台東部地区は組織経営体を中心に生産再開が進みつつありますが、多くは復興後の将来の経営方針や経営計画が明確になっていない状況です。そこで、これら農業復興を担う組織経営体が経営目標や、目標実現のための計画を策定し、実行に移して行く方法を習得するための研修会を開催することにしました。農山村地域経済研究所長の楠本雅弘氏を講師に迎え、JA仙台と共催で全4回(7月、8月、11月、1月)開催します。



仙台農業復興塾(第1回)の様子

1回目の仙台農業復興塾は7月5日に開催し、農業生産組織の代表者を中心に約30名の農業者が参加しました。講師からは、地域の誰もが役割を担って活躍できる「新しいタイプの集落営農」に取り組んで農業を家業から地域産業に発展させる必要性や、女性や高齢者の力を活かすことの重要性について話がありました。また、参考となる全国の成功事例が紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。

2回目以降は組織運営方法や経営管理について取り上げる予定です。仙台普及センターは復興塾の開催と個別相談への対応を通じて仙台東部地区の農業の復興を支援していきます。

いちご育苗研修会を開催！

【農業振興部：亶理農業改良普及センター】

亶理町・山元町において整備が進む大型いちご栽培施設「いちご団地」では、いちご生産者 135 戸が施設面積 35.2ha で本年からいちご栽培を開始する予定です。この 135 戸の生産者のうち 9 割は、初めて高設栽培(※1)に取り組みます。こうした、いちご団地への参加予定者の栽培技術習得のため、亶理農業改良普及センター(以下、亶理普及センター)では、関係機関と連携し、様々な研修会を開催しています。その一環として、8月2日、約120名の生産者が参加する「いちご育苗研修会」を開催しました。



講習の様子

亶理普及センターからは、今後の栽培スケジュールの確認や夜冷処理(※2)中の苗管理、定植時の注意点、肥料の溶かし方について講習を行いました。また野菜茶業研究所の岩崎上席研究員、宮城県農業・園芸総合研究所の高野上席研究員からヤシ殻の特性や定植時の注意点、カネコ種苗株式会社、片倉チッカリン株式会社から肥料の特性や養液管理について説明がありました。そのほか、肥料の溶かし方や定植の実演も行いました。実演の際には、「どうすればきちんと肥料が溶けるか」「定植の間隔や深さはどのくらいか」など、生産者から様々な質問が出されました。



いちご定植実演の様子

苗の準備も整い、夜冷処理や定植へ向けてさらに生産者の意気込みも高まったようです。次回は、9月上旬に養液管理などについて研修会を行う予定です。亶理普及センターではいちご産地の復興に向け、引き続き支援を行っていきます。

※1：地面より高い位置に棚を組んで作物を栽培する方法。土の代わりに人工的な培養土を使用する。いちごの場合、従来の土壌で栽培する方法と比較し、作業姿勢の改善による省力化と効率化が図られるなどのメリットがある。

※2：いちご苗を人工的に低温処理することで、花芽分化を早め、通常より早く収穫が可能となる栽培方法。

おすすめイベント情報

■天然プラネタリウムのタベ■

日時：9月29日(日) 午後4時～午後8時

場所：山元町坂元中学校校庭(山元町坂元字山作1)

内容：夕方は熱気球搭乗体験で空から山元のまちを眺め、夜は天然プラネタリウム鑑賞でまちから空を眺めるイベント。空とまちの両方を眺めて、山元町の「今」を感じてみませんか。

参加費：1,500円

定員：20名

問 まちフェス伊達ルネッサンス実行委員会 Tel：090-2953-0289

■仙山交流味祭 in せんだい～秋の恵み～■

日時：10月2日(水)～10月3日(木) 午前10時～午後4時

場所：仙台市勾当台公園市民広場

内容：仙台地域と山形県村山地域の農林水産物の直売市。秋の幸を堪能してください。

問 仙山交流味祭せんだいネットワーク事務局(佐藤蒟蒻店) Tel：0223-38-0412

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所
地方振興部(担当：鶴飼, 山本)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/> (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp (TEL) 022-275-9140